

変化している中国と中日関係

2016年10月13日

一、中国の現状と行方、どう見る？

政治――全面的法治社会の構築（新しい政治文明の確立）

外交――双方向の開放：東方向けの開放の深化（日米など先進諸国との関係の再発展、とりわけ安定的な政治安保関係の再構築）及び西方向けの開放の新局面（「一帯一路」、AIIB等）

経済――先富から共富へ（利益の再分配）

二、中日関係の近況

2014年11月7日、中日双方は四項目の原則的共通認識に合意して以来、両国関係は改善の方向に向かって進み、各界、各レベルの交流と協力が徐々に回復しつつある。

その一方、改善の勢いはまだ脆弱であり、依然として複雑でデリケートな要素を抱えている。大きな流れを見ると、中日関係は依然として構造的問題が発生しやすい大きな歴史的転換期にあり、新たな安定的枠組みが形成するまでにはまだ長い時間が必要であろう。

当面、中日関係は難関を潜ろうとしていて、前に進まなければ後退するという肝心の段階にある。両国は責任感と危機意識を強化し、妨害を排除して、マイナスを減らしてプラスを増やし、一日も早く正常な発展の軌道に戻すよう努力しなければならない。

三、中日関係の明るい未来を創るために何が求められるか

- (一) 自信を取り戻そう
- (二) 新たな発見の旅をスタートさせよう
- (三) 利益の共有をどんどん拡大すること
- (四) 国民大交流の新時代を創ろう
- (五) 危機管理メカニズムをしっかりと構築し、効果的に運用すること